

昭和48年1月13日第三種郵便認可

HSK通巻507号

発行日/2014年6月10日(毎月10日発行)

編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

北海道白老郡白老町字萩野 310-110

TEL (0144) 83-3537

会報/213

発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

定価/1部100円(会費を含む)

HSK

2014. 6月号

ほほえみ



白老町手をつなぐ育成会

磁石はいりませんか



パソコンやオーディオの分解をやっていると磁石が出てきます。一昔前と違って小さくても強力な磁石に驚かされます。間違って磁石同士を合わせてしまうと、力持ちでないとはずせません。

鉄のロッカーやボードに「バチッ」と音がしてくっついてしまうのです。そんな磁石を宝物のようにして沢山白板に張り付けて喜んでいましたが、結構貯

まりましたので、ご希望の方にはお譲りします。1個500円です。(本当は無料でお譲りしたいのですがこれも利用者の労働の産物なのです。)

ケサラを閉店しました

“ 苦しい時も頑張れば何とかなるさ ” との意を込めて

障がいを持っている子ども達が、いきいき、のびのびと暮らせる社会は健常児にとっても、お年寄りにとってもものびのび暮らせる社会なのだと思います。

私達手をつなぐ親の会は、障がいを持っている子ども達が地域の中で自立した生活を営むことを願い、喫茶ケサラや福祉センターの売店運営を始めました。

町民の皆様のこれまでの温かいご支援に深く感謝し、今後ともご指導・ご援助をよろしくお願い申し上げます。
白老町手をつなぐ親の会

上の文章は、手をつなぐ育成会がまだ手をつなぐ親の会と言っていた頃、地域の障がいの働く場所の一つになればと開店した、喫茶ケサラに貼りだしていたものです。

平成8年1月に開店してから18年がたち、紙も色あせましたが、会員・後援会員・支援者の皆様のご支援で何とか喫茶を維持してまいりました。しかし、様々な環境の変化により利用者数の減少に歯止めがかからず、これ以上維持することは困難と判断し、閉店することにしました。白老町手をつなぐ育成会と町民をつなぐ窓口でもあり、コミセンを明るくしていた要素の一つと自負していましたので、とても残念です。たくさんの方々のご利用に感謝申し上げます、これからはポロトのリムセをご利用下さい。

缶のシールはがし

片山大基君の仕事の一つが空き缶についているシールをはがすことです。

そのシールを台紙に貼って、ビールメーカー等に応募するのです。決められた数のシールを送ると、もれなく景品が当たる場合と、抽選で景品が当たる場合があるのです。

すでに、アルミ缶1か月分以上の売り上げとなっています。売れそうもない景品は、フロンティアでやるビンゴゲームの景品やゲームの景品に使っています。

シールをはがすのは主に大基君と修平君の仕事です。台紙に貼るのは佑太君や智子さんの仕事です。送るのは杉中さんの仕事です。



後援会費の納入のお願い

フロンティアを現在の土地に建てた時、後援会員の皆さんに、寄付をお願いしたり後援会費の前払いをお願いしたりしました。多くの方が私達の訴えに答えて下さいました。

毎年名前を出しそびれていましたが、丁度10年がたちましたので、お知らせいたします。尚、後援会費は1口2,000円ですが、振込用紙が全員に届きませんがあまり気になさらないで下さい。お気持ちで振り込んで下さい。

【10年】栗林隆司、小林賢次、小林麻里、斉藤 昭、斉藤龍男、斉藤洋子、高田 愛、滝 澄子、西村文洋、村松恵三、山口陽子、山手美恵、加藤武信、加藤泰男、白老ガス、東松慶子、荒川恵子、児玉久美子、笹原明美、船越小津恵、高野律雄、南川一夫、有田勝、五十嵐省三、西條洋子、新保 裕、鈴木 智、道山晴美、泉野泰人、一戸エミ子、高橋幸男、照井明美、戸田安彦、伴 英雄、山田隆司、渡邊ひろみ、遠田芳子、加藤泰久、佐々木 清、佐々木雅子、前田 博、渡邊明美、矢尻真喜生、上田道子、金子敏明、鈴木宏征、熊谷敏博、大谷フジ子、栗林幸子、黒田良治、渋谷美和子、藤田真砂子、青柳かおる

【15年】阿部 博、末永永恵

【25年】木村みゆき、松原迪子、芦田憲一、綾部 操

【50年】植村博行、佐藤春光、佐藤美穂子、坂東道子、石井和子、宮西勝子

【75年】新国辰男、新国英子

【150年】岡澤幸一

ふろんていあ♡メール

Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL

2014年6月号

〒059-0922
白老町萩野 310-110
TEL・FAX0144-83-3537

今年も沢山の竹の子が採れました!

今年も隊長鎌田さんを中心とした竹の子収穫チーム(西本さん・山中さん・山口(奈)さん・佐々木勝美さん)が頑張って竹の子を沢山採ってきてくれました。

竹の子を水煮の瓶詰めにするため、筋を入れ、茹でて、皮を剥く作業チームはエコ班のみんなで一生懸命頑張ってくれました。

皆さん暑い中大変な作業お疲れ様でした。
来年も宜しくお願いいたします。



カッコイイ柴田さん



スノーボードみたいでカッコイイ!!!



フロンティアの裏にあるハウスが年月を経てボロボロになってしまったので、新しい屋根の張り替えをすることになりました。

見る見るうちに新しい屋根を張っていたカッコイイ職人の柴田さんでした!

第25回 牛肉まつり



今年も白老名物【白老牛肉まつり】が6月7日(土)・8日(日)に行われました。ことしは残念なことに2日間ともに雨にあたり、売上げもダウン↓・体力もダウン↓。そんな中でも手伝いに来てくれた所員の皆さんは元気に大変頑張ってくれました。前日からの準備。朝早くから出勤夜遅くまでの片付け等、所員・職員の皆さん本当にお疲れ様でした。

今年の来場者数は3万2千人だったそうです。(ちなみに去年は5万人) やっぱり悪天候が影響しているんですかねえ～。来年は晴れると良いなあ～！

いたどり入浴剤 虎杖の湯

虎杖の湯が今年も完成いたしました！
フロンティア周辺のいたどりを採取し乾燥させ、細かく揉んで、選別をし袋に詰めて完成。

いたどりの採取期間が短く、大量生産できない商品です。いたどりは、血液をサラサラにするフラボノイドを多く含んでいますので身体に優しい自然のめぐみをみなさんも是非使ってみてください。



リムセで待っています

(財)アイヌ民族博物館から喫茶「リムセ」の委託を受け、4月末から新装オープンしました。

伝統料理のオハウ(鮭、大根、人参、ジャガイモ、長ネギの塩味汁)の作り方を教えていただき、ペネいも(しばれさせた紅マルをついた)の焼き方も学びました。

フロンティアの自作料理として、ニセウ(どんぐり)うどんも出すことにしました。(トッピングに鹿肉のしぐれ煮・フロンティアの卵の燻製・白老産椎茸・長ネギが入っています)

小さなフライヤーを置いて、フロンティア製のフライドポテト、もちもちドーナツも揚げています。大野さんの版画のポストカードも作りました。

そしてなんとと言ってもすばらしいのが喫茶「リムセ」から見るポロト湖の景色の良さです。霧がかかってもよし、晴れていてもよし、誰もいなくなった後の夕日もよしなのです。博物館の展示を半日かけて見て聞いて、その後ゆっくりとリムセで休憩して下さい。



そして、以外と知られていないのが、町民は駐車場も無料、入場料も無料なのです。「町民です」と言って名前を記入して入ってきて下さい。

敬子さんの「ケサラ」時代のお客さんや職員さんの友達もたくさん来てくれました。育成会の会員さんや後援会員さんも是非「リムセ」に寄って楽しいひとときを過ごして下さい。待っています。

(第3種郵便物認可)

アイヌの「食」カフェで提供

白老町のアイヌ民族博物館敷地内にあるカフェ「リムセ」が、店内にすだれをはり、アイヌの家屋「チセ」風に改装された。アイヌ伝統料理などを提供し、来館者の憩う場になっている。

リムセはアイヌ語で「踊り」や「輪舞」のこと。2009年夏にオープンし、昨年度まで博物館が運営していたが、今春から町内の障害者福祉施設「フロンティア」に運営を委託した。職員1〜2人と施設利用者3人が常駐している。

サケや野菜が入った伝統料理の塩味スープ「オハウ」(400円)などこれまでの人気メニューのほか、今春からはドン

白老 ドングリ粉のうどん人気



人気の「ニセウうどん」と店長の田湯さん

リの粉を練り込んだ「ニセウうどん」(650円)も加わった。白老産のシイタケとシカ肉、フロンティアで平飼いしている鶏が産んだ卵の薫製をのせている。

もちもちしたコシの強いうどん

んは人気が高く、週末には売り切れる日もあるという。店長の田湯美那子さん(26)は「ポロト湖の景色を眺めながら、アイヌの食文化にも触れてもらえれば」と話している。

営業時間は午前9時半〜午後4時。年末年始だけ休み。利用には博物館の入場料(大人800円など)が必要。白老町民は無料。問い合わせは博物館(0144・82・3914)へ。



HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
発行日 2014年6月10日発行(毎月10日発行)
HSK通巻番号507号
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
TEL 0144-83-3537
会報/213号
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)